

後、復興の道路建設による店舗の立ち退き、さらに父が他界したことをきっかけに、夫の実家がある下関市豊北町に移り住み、2018年5月25日に「角島ジェラート ポポロ」を開業しました。

ジェラート専門店として、オリジナルのものを食べていただきたいという想いで、地域や季節の食材を取り入れ、常時12種類、年間約70種類のジェラートを作っています。

### これまでのご苦労や喜びについて教えてください。

宮城の父のジェラート店では、初めは販売の手伝いをしていましたが、その後、厨房に入りジェラートを作るようになりました。もともと、すでに配合された原料を業者から仕入れてジェラートを作っていました。その後、自分で配合することにしました。何も分らないゼロからのスタート。どのような食材を、どのような割合で混ぜたらよいかという大きな壁にぶつかりました。配合の勉強をしながら試行錯誤を繰り返して、今の味に落ち着くまでには大変な苦労がありました。お客様から「美味しい」との声をダイレクトに聞けるのが、なにより嬉しい瞬間です。

また、震災の後、店舗は無事だったものの、このような状況の中でお店を続けて良いのかと悩みましたが、息子に「こんな時だからこそ食べたくなるんじゃない？開けてみたら！」と背中を押してもらったことで、お店の再開に踏み切ることができました。

来店されたお客様には「開いて良かった」「ホッとする味」と言っていたとき、被災により地域全体が困難な思いをしている中、スイーツの持つ力に感動しました。今では、自分の職業に誇りを持っています。

### 「その人らしく働く」ために大切なことは何だと思えますか。

一つは、プライベートの時間を大切にすることだと思えます。狭い厨房で仕事ばかりしていると、考えが行き詰まり、アイデアも湧いてきません。別の角度から仕事を見つめるためにも、何も考えない時間を作ったり、感じたことを大切に自分の時間を持つたりしています。

もう一つは、人との繋がりを大切にすることです。私自身、人見知りの性格でしたが、お店を開業するのに「そうは言っていられない」と思い、「女性創業セミナーエッセイ」に参加しました。自分らしさを発揮するには、自



分にできないことは人に頼ることだと、そこで出会った人たちを通じて学びました。その時の出会いに支えられ、今の私とお店があると思っています。

### 今後の抱負をお聞かせください。

ジェラートはどうしても、冬になると売り上げが伸び悩みます。冬の売り上げをどう補っていくか、一年を通してお客様に来てもらえるようにはどうするかを考えなければなりません。

そこで最近始めたのが、オンラインショップでの受注・販売です。これを導入したことにより、遠くの人にも食べていただくことができ、古くから

のお客様である宮城県の方からも注文をいただいています。これから、たくさんの方に知っていただき、食べてもらえる工夫をしていきたいです。

また、下関のこの地でお店を続けていくには、私自身が生涯現役でいるとともに、任せられる後継者を育てていくことが課題だと考えています。

「ポポロ」は父が開業した時からの名前で、人々が集うという意味があります。父がこの名前に込めた想いを大切に、永く愛されるお店にしていきたいです。

(取材：金田、藤本)

「私らしさ」とは、人と人とのつながりがあるこそキラリと輝くものであることを、3人のお話から教えていただきました。確かなつながりの中で、性別や立場に関係なく「その人らしくある」ことが、目指すものではなく当たり前の社会になれば、今よりずっと豊かになるのではないのでしょうか。